

氏名	鎌 田 政 博
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3479 号
学位授与の日付	平成 12 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	着脱式コイルによる動脈管塞栓術—治療成績・合併症とその 対策—
論文審査委員	教授 大江 透 教授 佐野 俊二 教授 清水 信義

学位論文内容の要旨

動脈管開存症32例に着脱式コイルを用いて塞栓術を行い、29例で完全閉塞を得た。動脈管最小径は1.0～3.1mm（平均1.9 mm）であり、2例以外でコイルは1本のみ使用した。合併症として軽症左肺動脈狭窄（ ≤ 6 mmHg）を3例で、三尖弁腱索へのコイル脱落を2例で認めた。前者と塞栓をやり直した計6例では、コイルが塊状になり肺動脈内に2.5巻以上突出した。原因を明らかにするため動脈管のガラス模型を作成し、コイルの離脱時の運動を直視下に検討した。その結果、コイルとデリヴァリワイヤの連結が堅固な場合、左回りの回転をかけられた右巻コイルの手前側螺旋が遠位側螺旋内に入り込み塊状になることが判明した。着脱式コイルにより、最小径が3mm 前後までの動脈管を比較的容易に閉鎖できるようになった。しかし、塞栓術を安全に行うためには、1) 動脈管外に過剰なコイルを突出させない操作と、2) 動脈管形態の正確な評価が必要で、当科で用いている新しい動脈管分類についても報告した。

論文審査結果の要旨

本研究は動脈管開存症塞栓術における動脈管開存症塞栓用着脱式コイルの成績を検討したものであるが、従来十分確立されていなかった動脈管開存症塞栓用着脱式コイルに関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。